

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成26年6月5日 NO.21 (121)

ヘビがきれいな人がいるかもしれないので、写真は小さめにしました！



Tくん 「モンタ博士！ぼく、ヘビをつかまえました。すごいでしょ。」

モンタ博士「ほほー！それはよかったね。ところで、どこにいたの。」

Tくん 「谷保天神（やぼてんじん）の水のあるところです。」

モンタ博士「そういうところにいるね。ところで、エサはどうしているのかな。」

Tくん 「イトミミズを食べさせています。モンタ博士、これはヒバカリですね。」

モンタ博士「そうだね。むかしは毒（どく）があると言われていて、命（いのち）がその日ばかり（ヒバカリ）だから、その名前になったらしいけど、本当（ほんとう）は毒なんてないんだ。とてもおとなしいヘビだよ。」

Tくん 「めずらしいへびなんですか。」

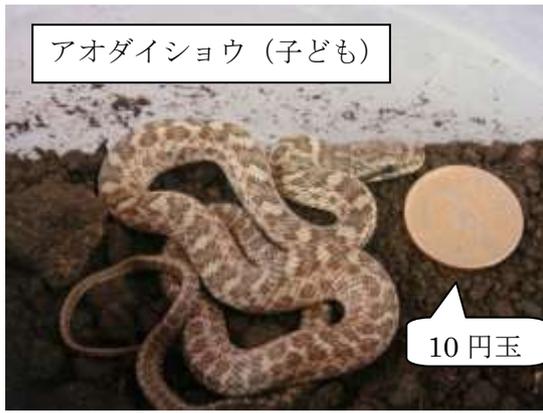
モンタ博士「市街地（しがいち）でもよく見られるふつうのヘビだよ。首のところがちょっと白っぽいのが特徴（とくちょう）だね。」

Sくん 「モンタ博士！ぼくは、ヘビのぬけがらを見つけました。」

モンタ博士「ほほー！それはよかったね。へびのぬけがら、つまり脱皮（だっぴ）はどうやるか知（し）ってるかな。」

Sくん 「いいえ、知りません。」

モンタ博士「頭（あたま）から、くつ下をぬぐようにするんだよ。」 そして、つぎの日



Sくん 「モンタ博士！アオダイショウか、マムシかわかんないけど、へビとったよ。」

モンタ博士「ほほー！それはよかったね。アオダイショウの子どもはね、あまり青く（緑色っぽい）なくて、マムシにちょっとにているんだ。」

Sくん 「なーるほど。ほかにどんな特徴があるのですか。」

モンタ博士「アオダイショウは細長くて、マムシはずんぐりむっくりなんだ。でも、まちがいがあっては大変（たいへん）なので、多摩動物公園のお友達に写真を送（おく）って、たしかめてもらっているんだよ。」

Sくん 「毒のあるへビって、どんなへビがいるのですか。」

モンタ博士「ハブ（沖縄などにしかない）、マムシ、ヤマカガシなどが毒をもっているから気をつけよう。くわしい人によく聞くことが大切（たいせつ）さ。」

Iくん 「モンタ博士！ぼくは、へビのほねを見つけました。」

モンタ博士「ほほー！それはよかったね。モンタ博士もね、むかし、骨（ほね）の標本（ひょうほん）これを骨格標本（こっかくひょうほん）というけど、自分で作ろうとおもってね、死んだへビを土の中にうめたことがあるんだけど、でも、うまくできなかつたね。」

Iくん 「とてもきれいな標本でしょ。ぼくの宝物（たからもの）です。」

モンタ博士「そうだね。水分（すいぶん）や温度（おんど）、それから、その場所（ばしょ）が標本ができるような条件（じょうけん）のよい所だったからだろうね。」

花ちゃん 「あの一……。今日はへビのお話ばかりですね。わたし、へビ大きらいの大きらいなんです。へビなんていなければいいと思います。」

オー君 「へビだって、生き物だ。邪魔者（じゃまもの）じゃないよ。」 次号に続く